

糖尿病指標 国際基準に

やまなし

医療最前線

県立中央病院から

《 16 》

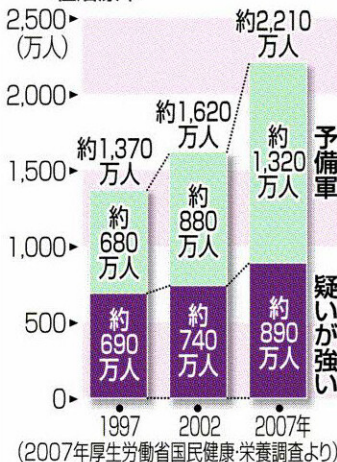
腎症や網膜症、神経障害などさまざまな合併症を引き起こす糖尿病の患者は年々増加し、予備軍を含めると全国で2200万人を超える。4月から、指標となる血液中のHbA1c（ヘモグロビンエーワンシー）の表記方法が変わるため、県立中央病院は注意を呼び掛けている。

糖尿病は膵臓から分泌されるインスリンが不足することにより、慢性的に血糖値が高い状態が続く病気で、自覚症状がないまま、合併症を引き起こすこともある。糖尿病患者の増加に伴い、合併症の患者も増加しており、糖尿病性腎症で新たに人工透析を始める患者は全国で年間1万6千人に

糖尿病は膵臓から分泌さ

日本における糖尿病人口の推移

- 糖尿病の可能性が否定できない人
HbA1c 5.6% 以上6.1%未満
- 糖尿病が強く疑われる人
HbA1c 6.1%以上または現在治療中



変更内容 正しく理解を



井上正晴 糖尿病病院長
内分泌内科

上る。

糖尿病の指標となるHbA1cは、赤血球の中にあ

って全身に酸素を運んでいへるヘモグロビンの特定部位に、血液中の余分なブドウ糖が結合したものだ。全ヘモグロビンに占める割合(%)で示される。過去1〜2カ月の平均的な血糖値を反映する。

同病院糖尿病内分泌内科長の井上正晴医師は「HbA1cの表記の変更には注意が必要。変更内容を正しく理解し、くれぐれも慌てて薬の増量などを考えないように」と話す。

糖尿病で困らないためには、定期的な健診・検査を受け、早期に治療を始めることが重要。糖尿病と診断された場合は、インスリンや経口血糖降下薬などの薬物療法だけでなく、食事療法と運動療法による生活習慣の改善がポイントになる。また、HbA1cだけでなく、血圧や脂質、体重などのコントロールを併せて行い、合併症に注意することも大切だ。井上医師は「血糖コントロールだけでなく、合併症の検査やがん検診を行い一病息災を目指す。次回は4月13日です」

HbA1cの表記は4月から日本独自のJDS値という値から国際基準のNGSP値に統一される。「糖尿病が強く疑われる」とされたHbA1cは、これまでの「6.1% (JDS) 以上」から「6.5% (NGSP) 以上」と0.4ポイントを加えた値に変更される。このため、自身のコントロール状態の把握に誤解が生じる可能性がある。